

# ONE WORLD Smiles 5

## Lesson 3 I have P.E. on Monday. 「聞くこと」「話すこと [発表]」における評価 (案)

### 1 単元目標

- ・友達が好きな曜日の時間割や、将来の夢に向けてどの教科にがんばって取り組んでいるかについて聞き取ったり、自分の将来の夢をかなえるために時間割を友達に知ってもらうために話すことができる。
  - ・アルファベットの太文字と小文字の組み合わせがわかり、それらを書くことができる。
- ※本単元における「読むこと」「書くこと」については記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導は行う。

### 2 単元の評価規準（「聞くこと」「話すこと [発表]」に焦点をおいて）

※教師用指導書『指導・評価編』p. 14-23 または弊社 HP をご参照ください。

[https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/eigo/category04/download.html#download\\_00](https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/eigo/category04/download.html#download_00)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
聞くこと	<p>&lt;知識&gt;教科や時間割、曜日、職業の言い方、What do you have on Monday?, I have Japanese on Monday.という基本的な表現について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;どの曜日にどんな授業があるかを聞き取る技能を身につけている。</p>	友達が話すのを聞いて、好きな曜日の時間割や将来の夢に向けてどの教科にがんばって取り組んでいるかについて聞き取ったりしている。	友達が話すのを聞いて、わからないことがあれば確かめたりしながら、好きな曜日の時間割や将来の夢に向けてどの教科にがんばって取り組んでいるかについて聞き取ったりしようとしている。
話すこと [発表]	<p>&lt;知識&gt;教科や時間割、曜日、職業の言い方、What do you have on Monday?, I have Japanese on Monday.という基本的な表現について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;どの曜日にどんな授業があるかを話す技能を身につけている。</p>	自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、簡単な語句や基本的表現を用いて話している。	自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、時間割表を示すなどして、伝わるように話そうとしている。

### 3 単元の指導と評価の計画（7 時間）

時	本時のねらい・活動	評価規準
第 1 時	<p>ねらい 外国の子ども達の学校生活に関心をもち、単元の見通しをもつ。</p> <p>(1) 導入 (あいさつ, Small Talk 〈今日の時間割, 好きな教科〉, めあてと見通しの確認)</p> <p>(2) Let's Watch (p. 34 ~ 35) : 動画を視聴して世界の子ども達がどのような学校生活を送っているのか概要を捉える。</p> <p>(3) Let's Think 1 (p. 35) : 自分の学校との共通点や相違点について考え, 話し合う。</p>	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導は行う。

	<p>(4) Let's Say It Together: I have math on Tuesday. (p. 34) : 教科の言い方に気をつけながら、聞いたり歌ったりする。</p> <p>(5) ふりかえり</p>	
第2時	<p><b>ねらい 曜日・教科に関する言葉に慣れ親しむ。</b></p> <p>(1) 導入 (あいさつ, Small Talk (もしくは Let's Watch 復習), めあてと見通しの確認)</p> <p>(2) Let's Sing : The Seven Days of the Week (p. 36)</p> <p>(3) Let's Say It Together : 前時に扱った I have math on Tuesday. で絵カードを利用しつつ, 教科名を確かめる。</p> <p>(4) Let's Listen 1 (p. 36) : 登場人物が好きな曜日とその日の時間割について聞き取る。</p> <p>(5) ふりかえり</p>	<p>本時では, 記録に残す評価は行わないが, 目標に向けて指導は行う。</p>
第3時	<p><b>ねらい 学びたい教科や一緒に学びたい人について友達と伝え合う。</b></p> <p>(1) 導入 (あいさつ, Let's Sing: The Seven Days of the Week, Let's Say It Together: I have math on Tuesday., めあてと見通しの確認)</p> <p>(2) Let's Listen 2 (p. 37) : 曜日や教科に注意して教育番組の紹介を聞き取る。</p> <p>(3) Activity (p. 37) : 学びたい教科や一緒に学びたい人を尋ね合う。</p> <p>(4) ふりかえり</p>	<p>本時では, 記録に残す評価は行わないが, 目標に向けて指導は行う。</p>
第4時	<p><b>ねらい 職業に関する言葉に慣れ親しみ, 職業と教科を関連づけて考える。</b></p> <p>(1) 導入 (あいさつ, Let's Sing, Let's Say It Together, Small Talk, めあてと見通しの確認)</p> <p>(2) Let's Listen 3 (p. 38) : になりたい職業とそのためがんばっている教科を聞き取る。</p> <p>(3) Let's Think 2 (p. 38) : それぞれの職業に就くために大切な教科について考え話し合う。</p> <p>(4) Let's Listen 4 (p. 39) : 時間割とになりたい職業を聞き取り, 復唱する。</p> <p>(5) ふりかえり</p>	<p><b>「聞くこと」の記録に残す評価</b></p> <p>3人の時間割と夢の授業について聞き取っている。〈行動観察・教科書記述分析〉</p> <p>※児童が聞き取る様子や教科書の記述を分析し, 評価の記録を残す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 20px;"> <p>4-1-1, 4-1-2 参照</p> </div>
第5時	<p><b>ねらい 自分の「夢の時間わり」について考え, 友達と交流する。</b></p> <p>(1) 導入 (あいさつ, Let's Say It Together, めあてと見通しの確認)</p> <p>(2) Final Activity (p. 40) : 自分の「夢の時間わり」を考える。【発表に向けての練習】 / Let's Think 3 (p. 40) : 友達の発表を聞くときの注意点を考えさせる。</p> <p>(3) ふりかえり</p>	<p><b>「聞くこと」の記録に残す評価</b></p> <p>※前時の Let's Listen 4 において, 聞き取りが不十分な児童がいる場合は, その児童の状況をみながら活動を進め, 聞き取りができるよう継続的に指導を行う。(例: Final Activity の活動モデル動画, CD の発話例の</p>

		聞き取り) 4-1-2参照
第6時	ねらい 他者に配慮しながら「夢の時間わり」を考えて、言ったり聞いたりする。 (1) 導入 (あいさつ, めあてと見通しの確認) (2) Final Activity (p. 40): 「夢の時間わり」について発表会をする。/ 発表会のふりかえり (3) ふりかえり	「話すこと[発表]」の記録に残す評価 自分の将来の夢をかなえるための時間わりを友達に知ってもらうために、簡単な語句や基本的表現を用いて話している。<行動観察> ※児童が自分の夢や夢をかなえる時間わりについて話している様子を観察し、評価の記録を残す。 4-2-1, 4-2-2参照
第7時	ねらい アルファベットの大きい文字と小さい文字の組み合わせを正しく書く。 (1) 導入 (あいさつ, Let's Sing: ABC Song 2 (p. 14), めあてと見通しの確認) (2) The Alphabet ③ (p. 41): 大きい文字と小さい文字の形の特徴に気付く。 (3) Sounds and Letters [b and p] (p. 42) (4) Review (p. 43): アルファベットの大きい文字と小さい文字の組み合わせを正しく書く。 (5) Lesson 3 のふりかえり: 自己評価, 数人が発表する。	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導は行う。

#### 4-1-1 第4時（「聞くこと」の評価場面）の指導と評価例

	指導過程	児童の活動	指導のポイント, 評価方法
導入 10分	(1) あいさつ (1分) (2) Let's Sing: The Seven Days of the Week (2分) ④p. 36 ⑤ / CD 2-85 (3) Let's Say It Together : I have math on Tuesday. (3分) ④p. 34 ⑤ / DVD CD 2-75 (4) Small Talk (3分) (5) めあてと見通しの確認 (1分)	・あいさつをする。     ・めあてと見通しを確認する。	
	本時のめあて 職業と教科について考え、話したり聞いたりしよう。		

展開 1  15分	(6) Let's Listen 3 (15分) ⑧p. 38 ⑨ / CD 3-1 ・準拠教材の絵カードを用いて、職業の言葉を示す。 ・教科書巻末絵カード（職業名）を使って、ポインティングゲームをする。（紙面を使ってもよい。） ・音声を聞かせ、がんばっている教科が何であるか聞き取らせる。	・紙面やカードを見て職業を表す言葉を知る。 ・登場人物ががんばっている教科を予想し、ペアやグループで話し合う。	・リスニングに入る前に、職業名に十分慣れさせておく。 ・職業を表す言葉は6年Lesson 8でもふれる。
展開 2  7分	(7) Let's Think 2 (7分) ⑧p. 38 ⑨ / CD 3-6 ・音声を聞かせて職業の名前を確認させる。教科書巻末絵カード（職業名）を使って、doctor, scientist の意味も理解させておく。 ・巻末の職業名・教科名の絵カードを用いて、ペアやグループで意見交換させる。	・職業名を音声に続いて復唱し、確認する。 ・ペアやグループになって職業名カードを並べ、大切だと思う教科名のカードを置き、意見交換する。	・すべての教科が大切であることに気付かせたい。
展開 3  8分	(8) Let's Listen 4 (8分) ⑧p. 39 ⑨ / CD 3-9 ・活動について説明する。 ・紙面の時間割と、職業を確認させる。	・活動のしかたを知る。 ・紙面の時間割と職業名を言う。 ・登場人物がなりたい職業を予想し、関連する教科も線でつないで予想する。	・事前にリスニングにおいて聞き取れたことを多くメモするように指示できるとよい。 ・個人を指名して、言わせたり、全体で素早く確認したりする。 ◎3人の時間割と夢の授業を聞き取っている。＜行動観察＞
まとめ  5分	(9) 本時のふりかえり (4分) (10) 終わりのあいさつ (1分)	・自己評価やコメントを記入する。 ・終わりのあいさつをする。	

#### 4-1-2 「聞くこと」＜知・技＞の評価例（第4時）

評価場面	Let's Listen 4 活動内容：3人の登場人物の時間わりと夢の授業を聞き取る。（何になりたいか予想する。）
評価方法	教科書 p. 39 Let's Listen 4 記述分析
評価基準（ルーブリック）	＜知識・技能＞ (a) 教科や時間割、職業の言い方についての基本的な表現について理解し、登場人物の時間割と夢の

	<p>授業，また具体的な情報を正しく聞き取っている。</p> <p>(b) 教科や時間割，職業の言い方についての基本的な表現について理解し，登場人物の時間割と夢の授業を聞き取っている。</p> <p>(c) 教科や時間割，職業の言い方についての基本的な表現について理解が不十分である。あるいは，登場人物の時間割と夢の授業を聞き取ろうとしているが，正確さに欠けている。</p>
評価例	<p>【児童1】時間割と夢の授業を正しく結び付けられている。また，教科書の記入欄に「soccer player」や「科学者」「ミュージシャン」と書いている。さらに欄外に聞き取れた具体的な情報のメモとして「かがわしんじ」等と書いている。教師とのやり取りでも，聞き取れたその他の情報について発表している。 ⇒「十分に満足できる」状況(a)と判断できる。</p> <p>【児童2】時間割と夢の授業を正しく結び付けられている。教科書の記入欄に「サッカープレイヤー」や「科学者」「ミュージシャン」と書いている。 ⇒「おおむね満足できる」状況(b)と判断できる。</p> <p>【児童3】時間割と夢の授業を正しく結び付けられておらず，教科書の記入欄に「サッカー」「ミュージシャン」は書いているが，「科学者」は空欄のままであり，聞き取りが正確さに欠けている。 ⇒「努力を要する」状況(c)と判断できる。</p>
事後指導，備考	<p>■事前にリスニングにおいて聞き取れたことを多くメモするように指示できるとよい。</p> <p>■(c)と判断した児童が本単元の評価において【B】を達成できるようにするための改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本活動以降，教師の Small Talk やチャンツ等において聞き取りの学習改善につながる手立てを継続して行うようにし，該当の語句や表現を用いる活動を十分に行う。また，本単元の Activity において友達の発表内容を理解しているかについて，十分に理解できるように助言や支援を行う。</li> <li>・なお，次時以降の Activity にて(c)と判断した児童に学習改善が見られた場合は，その見取りを&lt;知識・技能&gt;に加味し，「おおむね満足できる」状況(b)と判断して「記録に残す評価」とし，本単元における&lt;知識・技能&gt;において評価の総括を【B】とする。</li> </ul> <p>■本案では第4時に「聞くこと」の評価場面を設けたが，これに加え，教師用指導書『ワークシート編』p. 10-11「単元のまとめワークシート」の1 2を使って，総括的に評価することも考えられる。</p>

#### 4-2-1 第6時（「話すこと [発表]」の評価場面）の指導と評価例

	指導過程	児童の活動	指導のポイント，評価方法
導入	<p>(1) あいさつ (2分)</p> <p>(2) めあてと見通しの確認 (1分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする。</li> <li>・めあてと見通しを確認する。</li> </ul>	
3分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>本時のめあて 「夢の時間わり」の発表会をしよう。</p> </div>		

展開 1  37分	(3) Final Activity (30分) ⑧p. 40 ⑨/DVD CD 3-13 「夢の時間わり」の発表会をする。 ・前時に Let's Think 3 でふれた内容を想起させる。 ・中間評価をし、モデルとなるコミュニケーターを(発表する側、聞く側ともに)紹介する。	・自分の「夢の時間わり」を発表する。 ・友達「夢の時間わり」の発表を受動的に聞き、賞賛したり質問したりして、反応の言葉を返す。	・発表の方法は学校や児童の実態に応じて工夫する。 a) 発表ソフトで作成し、プレゼンテーションをする。 b) 学級を2分割し、時間制限を設けマンツーマンで発表し合うなど。 ◎自分の将来の夢をかなえるための時間わりを友達に知ってもらうために、簡単な語句や基本的表現を用いて話している。<行動観察> ※児童が自分の夢や夢をかなえる時間わりについて話している様子を観察し、評価の記録を残す。
	(4) 発表会のふりかえり (7分) ・発表のよかった児童や聞き方のよかった児童を話し合わせたり、感想を述べ合ったりさせ、発表の総括をする。	・気付いたことを発表する。 例 内容の面白さ・興味深さ。友達の新たな一面・新たなよさ。 ・発表のよさ。聞き方のよさ。自分のよさ。 ・努力。	
まとめ 5分	(5) 本時のふりかえり (4分) ・ふりかえりシートに記入させる。Final Activity としてどうだったか、単元全体のまとめとして記入させる。 (6) 終わりのあいさつ (1分)	・ふりかえりシートに記入する。 ・終わりのあいさつをする。	

#### 4-2-2 「話すこと [発表]」<知・技><思・判・表><主>の評価例 (第6時)

評価場面	Final Activity 活動内容：夢の時間わりを伝える
評価方法	行動観察
評価基準 (ルーブリック)	<p>※本活動は主に&lt;思考・判断・表現&gt;&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt;を重点的に評価することが望ましいが、&lt;知識・技能&gt;についても授業や評価の実態に応じてフォローできるよう評価基準(ルーブリック)を掲載する。</p> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <p>(a) 教科や時間割、職業の言い方についての語彙や表現を正しく理解し、それらを使って自分の時間割や夢の授業、将来つきたい職業について話している。</p>

	<p>(b) 教科や時間割、職業の言い方についての語彙や表現をおおむね理解し、それらを使って自分の時間割や夢の授業、将来つきたい職業について話している。</p> <p>(c) 教科や時間割、職業の言い方についての語彙や表現を十分に理解していない、あるいは理解しているがそれらを使って自分の時間割や夢の授業、将来つきたい職業について十分に話せていない。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <p>(a) 自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、本単元で学習した語彙や表現だけでなく、これまでの既習語句や表現も使いながらより詳しい情報を付け加えて、自分の時間割や夢の授業、将来つきたい職業について話している。</p> <p>(b) 自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、本単元で学習した語彙や表現、間違いや時々つまることはあるものの既習の語句や表現を使って、自分の時間割や夢の授業、将来つきたい職業について話している。</p> <p>(c) 自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、本単元で学習した語彙や表現を使うことにとどまり、その目的や場面、状況に応じて話せていない。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt;</p> <p>(a) 自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達によりよく伝えるために、聞き手に問いかけたり、状況に応じたアイコンタクトやジェスチャーなどを工夫したりしている。また、聞き手の理解度をふまえて、内容を補足したり、伝える順序を修正したりするなど、相手に応じてよりよく伝えるための工夫をしている。</p> <p>(b) 自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に伝えようとする際に、間違いやつまりながら発表することもあるが、アイコンタクトやジェスチャーを入れたりして、準備した原稿をもとに聞き手に伝えようとしている。</p> <p>(c) 自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に伝えようとする際に、資料や下ばかりを向いてしまい、何とかして伝えようとする姿勢が見られない。あるいは、発表を最後まで続けることができない。</p>
<p>評価例</p>	<p>【児童1】</p> <div data-bbox="336 1485 791 1921" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>Hello. This is my dream schedule. I have Japanese, English, English, P.E., and P.E. I like English very much. I want to be a rugby player. I study P.E. with Leitch Michael. Do you know Leitch Michael? I like rugby. Thank you.</p> </div> <div data-bbox="783 1883 914 2002" style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元で学習した語彙や表現だけでなく、既習の語彙や表現を目的に応じて使って話している。</li> <li>・効果的なジェスチャーを加えたり、聞き手の人数に応じて目線を振ったりして話している。</li> <li>・聞き手に伝わる声の大きさと話している。</li> <li>・聞き手の理解を確認したりするために聞き手に問いかけをしている。</li> <li>・練習のときの相手の反応を踏まえて、内容をより良くしようと発表のメモを書き換えている。</li> </ul>

⇒<思考・判断・表現><主体的に学習に取り組む態度>において「十分満足できる」状況(a)と判断できる。

【児童2】

Hello. This is my dream schedule. I have math, math, English, ... science, and science. I study science えっと, with Dr. Yamanaka Shinya. ... I want to be (a) scientist. Thank you.

- ・つまりながらではあるが、本単元で学習した語彙や表現を使って話している。
- ・アイコンタクトをしたり、ジェスチャーを交えているところもある。
- ・聞き手に伝わる声の大きさと話している。



⇒<思考・判断・表現><主体的に学習に取り組む態度>において「おおむね満足できる」状況(b)と判断できる。

【児童3】

Hello. This is my dream ... schedule. ... I ... have English, English ... and ...えっと, music and music, I ... want ... to ... musician. Thank you .

- ・本単元で学習した語彙や表現を使って聞き手に自分の時間わりや夢の授業, 将来の職業について十分に伝えられていない。
- ・うつむきながら話している。ジェスチャーなどの工夫が見られない。
- ・聞き手に伝わる声の大きさと話せていない。



⇒<思考・判断・表現><主体的に学習に取り組む態度>において「努力を要する」状況(c)と判断できる。

事後指導, 備考

■(c)と判断した児童が本単元または本単元以降の評価において【B】を達成できるようにするための改善案

- ・本活動以降においても、指導改善や、学習改善につながる手立てを継続して行うようにする。具体的には、Small Talk などを児童同士で行わせる場面を設定し、自分の夢の時間割について対話させる際に、個々のつまずきに対応しながら個別に What do you study?と教師が児童に問いかけを行ったり、I have .... I want to be ....の発話を促すための個別の指導・支援を継続的に行っていく。継続的な行動観察により、児童が聞き手に伝えようとする態度が改善したり、聞き手に伝え合うことができるように学習改善が見られたりした場合には、「おおむね満足できる」状況(b)を「記録に残す評価」とし、本単元における<思考・判断・表現><主体的に学習に取り組む態度>において評価の総括を

**【B】**とする。

- ・本単元以降、該当単元で扱う題材について、チャンツを用いて復習をしたり、そこで扱う語句や表現を用いてやり取りする等して、聞いたり話したりする活動を十分に行う。
  - ・励ましたり、よいところを見つけて称賛したり、また「評価例」の児童1のようにアイコンタクトやジェスチャーなどの工夫をしている児童の姿を共有したり、よい発表についてのふりかえりシートの記載を紹介したりするなどして、よい例を示す。(参考：教師用指導書『ワークシート編』p. 40-41「ふりかえりシート」または p. 44「活動記録シート」)
- 「話すこと [発表]」の評価として、本時での発表を記録に残す評価として位置付けているが、行うタイミングによって個別の状況に差が出るのが考えられ、児童全員を見取ることが難しい場合もある。そこで授業中に見取りに加え、学期に1回程度のパフォーマンス評価において、総括的な評価を行うことも考えられる。